

2022

地域社会研究

第15号

弘前大学大学院地域社会研究科

弘前大学地域社会研究会

はじめに

今年も、「地域社会研究」を皆さんにご覧いただく春がやってきました。第15号となります。弘前大学大学院地域社会研究科長として、今年も一言ご挨拶をさせていただきます。

「地域社会研究」は、弘前大学地域社会研究会が編集、発行しているものです。弘前大学地域社会研究会とは、弘前大学大学院地域社会研究科に所属する教員と在学生、およびOBで構成された研究会であり、発足以来、継続的に開催してきております研究会の報告および議論の場でもあります。

ところで、ご承知の通り、今年度も昨年度に引き続き、新たな形に変異しながら世界に蔓延するコロナ禍によって、依然として日常生活や生業に大きな影響を受けるだけではなく、研究・教育面でも相変わらず多大な障害を受けることとなっています。しかし、その中でも、研究会のメンバーは地道な研究テーマを継続して進めており、今回も6編の研究報告を寄稿していただいています。

客員研究員の櫛引素夫氏はこれまで続けてきている新幹線整備の課題を、地域医療に関連させた「北海道新幹線開業が青森市の地域医療にもたらした変化—青森新都市病院の事例と今後の展望—」を共同研究として報告してくれています。佐々木純一郎教授は昨年引き続き福井県高浜町を対象とした報告「株式会社うみから及び株式会社まちから：福井県高浜町の6次産業化施設「UMIKARA」の稼働によせて」を、客員研究員の竹ヶ原公氏からは「条件不利地域における小さな経済の取組による持続可能な「地域政策」の考察—青森県平内町藤沢地区と十和田市一本松地区を事例として」が報告されています。また東日本大震災から11年が経過したいま、田中重好氏の「ハザードの構築 伝統的災害観と科学的災害観」、そして野澤敬之氏の「ESDに位置付けたキャリア教育としての特別活動と連携した道徳の授業開発—東日本大震災直後の福島へのエネルギー資源輸送の絵本を資料として—」は重要な報告となっています。最後に平井太郎教授は「地域づくりをめぐるアクション・リサーチにむけて」で自らの研究方法論をまとめておられます。それぞれ、じっくり読んでいただければ幸いです。

以上、大学院地域社会研究科の2021年度における各自の研究意欲のポテンシャルを感じ取ることの出来る「地域社会研究第15号」に関しまして、率直なご意見やご感想をいただければ幸いです。来年度以降におきましても、寄稿を含めてご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、この3月をもちまして、弘前大学を去ることとなりました。これまでの様々なご協力、ご厚情に心から感謝申し上げますとともに、地域社会研究科ともども、これからも変わらぬ御支援を御願い申し上げ、研究科長として最後のご挨拶とさせていただきます。

令和4年3月

弘前大学大学院地域社会研究科
研究科長・教授 北原啓司

目次

《研究報告》

北海道新幹線開業が青森市の地域医療にもたらした変化
—青森新都市病院の事例と今後の展望—
(櫛引 素夫・客員研究員、三原 昌巳・昭和女子大学 専任講師、
大谷 友男・富山国際大学 准教授) 1

株式会社うみから及び株式会社まちから：
福井県高浜町の6次産業化施設「UMIKARA」の稼働によせて
(佐々木 純一郎・弘前大学大学院地域社会研究科 地域産業研究講座 教授)15

条件不利地域における小さな経済の取組による持続可能な「地域政策」の考察
—青森県平内町藤沢地区と十和田市一本松地区を事例として
(竹ヶ原 公・客員研究員).....21

ハザードの構築 伝統的災害観と科学的災害観
(田中 重好・尚絅学院大学 特任教授)27

地域づくりをめぐるアクション・リサーチにむけて
(平井 太郎・弘前大学大学院地域社会研究科 地域文化研究講座 教授)39

《その他》

ESDに位置付けたキャリア教育としての特別活動と連携した道徳の授業開発
—東日本大震災直後の福島へのエネルギー資源輸送の絵本を資料として—
(野澤 敬之・客員研究員).....53

『地域社会研究』の標準形式65

『地域社会研究』の標準形式；3rd

弘前大学大学院地域社会研究科『地域社会研究』第8号編集委員会

1. はじめに

本紀要を「地域社会研究」とする。年1回の刊行を目指し、査読論文・博士論文以前のアイデアや、未定稿段階のものを発表・報告するものとし、レスポンスやオピニオンを学内に限らず広く求めるものである。発行者は「弘前大学地域社会研究会」である。

2012年、同研究会は大学院教育のFD (faculty development) の一環として再スタートを切った。特集記事では大学院地域社会研究科の調査方法論で行われた調査の内容や、研究科の活動について報告する。そのほか、研究発表会で博士論文構想や学会発表などの立場を明確にして発表を行い、その内容を研究報告として掲載することができる。

2. 体裁

原稿はA4サイズとし、Microsoft word等のソフトで作成する。左右の余白は30mm、上部の余白は35mm、下部の余白は30mm程度とする。題名はページの冒頭に配置し、文字サイズは16ポイント太字程度とする。以下の様式を参考に、脚注に所属を明記する。本文は基本的に横書きで、文字数の設定は1ページあたり40字×40行、標準的な文字サイズは10.5から11ポイントである。

- 在学院生
弘前大学大学院地域社会研究科在学中 地域〇〇講座 (第X期生)
- 修了者、単位取得満期退学者など
現在勤務中の職場、研究機関、学会など
(弘前大学大学院地域社会研究科 地域〇〇講座・第X期生)
- 教員
弘前大学大学院地域社会研究科 地域〇〇講座
〇〇学部 職名

図版は、本文中に組み込んでも最後にまとめても良い。ただし、図版がカラー印刷となる場合は、印刷費用軽減のため、図版の配置を見直し、最後にまとめたりすることがある。

なお、この体裁は推奨のものであり、執筆者の希望によりある程度の変更は可能である。例えば、縦書き様式での執筆原稿は、裏表紙側のページからはじまるものとする。

全体を通して和文は明朝体、英文はTimes、句読点は「. (ピリオド), (コンマ)」及び「.(句点)、(読点)」のいずれかに統一する。基本的に数字は横書きの場合、算用数字を用い、縦書きの場合は漢数字を用いる。

文末には注と引用文献・参考文献などをまとめる。様式は統一してあれば特に問わない。

英題及び英文アブストラクトは特に希望のある場合のみ掲載する。

3. 内容

(1) 研究報告

地域社会研究会報告発表会において、報告・発表した内容とする。図版を含め、目安は10ページ前後とするが、アイデア段階のものや、研究の追録・中間報告などについては、多少ページが少なくなってもかまわない。在学院生の場合は、調査方法論にかかるものはその担当教員、それ以外の場合は指導教員に投稿前の段階で目を通してもらうこととする。

(2) 書評・新刊紹介など

地域社会研究会の会員が携わった書籍などについて、内容の紹介などを行うことができる。自薦・他薦を問わず、会員に紹介したい書籍などについて執筆することとする。目安は1～2ページ程度。

題名は「〔書評・新刊紹介など〕『紹介する書籍の題名』」とする。章立てなどで内容を紹介し、文末には刊行情報として、以下を参考に、発行所、発行年月、ページ、価格について明記する。表紙の写真などを図版として掲載することも可能である。その場合、発行所などへの図版掲載の確認・許可申請は執筆者が行う。

〈書籍情報サンプル〉

櫛引素夫著『地域振興と整備新幹線—「はやて」の軌跡と課題—』

(弘前大学出版会・2007年5月・B5判136頁・定価1,050円)

(3) 研究展望

地域社会研究科・地域社会研究会に関わる自身の研究について、今後の展望などについて述べることができる。1～5ページ程度。「(1) 研究報告」に準じるもので、執筆要件は規定しないが報告発表会での報告・発表を行っていることが望ましい。

(4) コラム

地域社会研究科・地域社会研究会に関わることで、例えばOB・OGから現況や修了後の研究進展についてや、修了後、外の視点から地域社会研究科を見てどのように感じたかなど執筆することができる。在学生在が、研究科についてのことを執筆したり、現在の研究について分かりやすくコラムを書くことも可能である。

コラム執筆の要件は、地域社会研究会報告発表会への1回以上の参加である。

(5) その他、地域社会研究科・地域社会研究会に関わることで、コラムやテーマ原稿など執筆希望がある場合は、編集委員会と協議の上、執筆することができる。

4. 投稿規程

地域社会研究会の会員（現行では、弘前大学地域社会研究科の院生及び、単位取得退学者・修了生、及び同研究科教員）であれば、誰でも執筆することが可能である。

ただし、「3. 内容」に記載の通り、研究報告については基本的に発表者しか投稿できない。

なお、合同大会などで発表した者については、地域社会研究科の院生に準じて投稿の資格を有することとする。

全ての場合において、図版・史資料などの掲載確認・許可申請は執筆者が行うこととする。また、調査報告の場合の調査先への許可についても同様である。

なお、地域社会研究科専任教員及び編集委員会などにおいて、特別な事情などが考慮された場合においてはこの限りでない。

5. 抜き刷り

抜き刷りは希望者のみ自費もしくは研究費で希望部数を購入することができる。

6. おわりに

「地域社会研究」では、レフェリーによる査読修正は行わない。ただし、教育的配慮から主指導教員もしくは副指導教員に目を通してもらうことを、お願いしたい。

完成原稿は図版などを含めたデータをCD-Rなどに入れるか、メールなどで編集委員会まで提出する。郵送の場合は、締切日必着のこと。印刷したもの（ハードコピーなど可）を1部添付することが望ましい。

※本原稿は2013年3月8日現段階での標準形式及び執筆・投稿規程について示したもので、今後変更される可能性がある。

監 修

弘前大学大学院地域社会研究科

地域社会研究
第15号

2022年 3 月22日印刷

2022年 3 月31日発行

編集兼発行者

弘前大学地域社会研究会

弘前市文京町1番地

☎0172-36-2111(代)

印刷所 やまと印刷株式会社

弘前市神田4丁目4-5

☎0172-34-4111(代)

地域社会研究

第15号

弘前大学地域社会研究会

2022